

# と し ょ か ん 宇 治

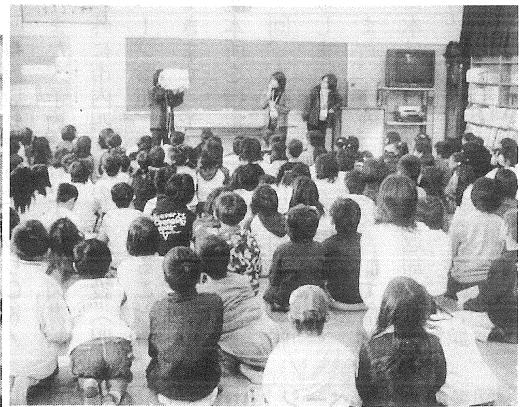
No. 54

2005年3月1日発行

宇治市中央図書館  
〒611-0023 宇治市折居台1-1  
0774 (39) 9256

宇治市東宇治図書館  
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-1  
0774 (39) 9182

宇治市西宇治図書館  
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1  
西小倉地域福祉センター3階  
0774 (39) 9226



学校図書館ボランティアによる  
「読書クイズ」大会

## 読書は心の糧

宇治市立宇治小学校校長 小松 美恵子

古くから伝えられている西洋の名言のひとつに、「食物は体の糧、読書は心の糧」というのがあります。この名言を待たずともなく、人間らしい温かい心を育てるうえで、よい本を読むことはとても大切なことです。

最近、子どもたちの「読書離れ」が大きな話題となつています。しかし、本校の図書室や学級での様子をみると、本を読むことが好きな子たちがたくさんいます。

本を読むというのは言葉を手がかりに、描かれている状況を思い浮かべたり、登場人物の気持ちになつたりすることですが、この時にいちばん大事なことは読者が描くイメージです。今はテレビやゲームなど、一人でじっと座って遊ぶことが多く、体を使って集団で遊ぶ遊びが減りました。その結果、子どもが自分の感覚や運動器官を通して体の中にイメージを蓄えることができにくくなつていて、本を読んでもそれを自分の中で生き生きとした実感できるイメージに変える力が弱くなつています。面白いはずの本を十分楽しめないという状況があります。

本校では、四月から司書の先生に来ていただき、また、毎週火曜日と金曜日には図書館ボランティアの保護者の皆様方のお力添えにより、ソフト面ハード面の両面から改善してきました。図書室が「学習・情報センター」としての機能を発揮するとともに、「読書センター」としての機能も充実し、子どもたちの知的な活動を支援し、情操や人間形成を培ううえで重要な役割を果たしています。

さらに、毎週水曜日の「朝の十分間読書」は、子どもたちが朝の静けさの中で本に浸り、落ち着いた心で本に向かうことにより、授業に対する集中力がすすなど、効果を上げています。

このように、読書は言葉を学び、感性を磨き、想像力を養うとともに表現力や創造力、コミュニケーション能力を高めるため、子どもたちにとって欠くことのできないものです。

体の食事と共に、読書という心の食事を合わせて、一日四回の食事を摂ってほしいと思います。

### 図書館を上手に使いこなすために

「読みたい本が見つからない」「コンピュータで調べても、その本がどこにあるのか、わかりにくい」といった声をよく聞きます。そこで、今回は、本の探し方から予約、そして、その本の便利な受け取り方のポイントについて説明をします。

#### \* 図書館で本を探す

館内には利用者開放端末が置かれています。画面を操作して書名や著者名等で読みたい本が出てきたら、その本のところをもう一度押してください。そうすると、読みたい本が図書館にあるのか、または貸し出し中であるのかが表示されます。青の表示の場合、その所をもう一度押すと、どこの図書館にあるかが表示されます。貸し出し中であったり、今いる図書館になかったりした場合は予約申込用紙により予約をしてください。書庫に入っている場合や、書架の場所がわからない時はカウンター職員におたずねください。

#### \* インターネットで予約ができる！

図書館に来なくても自宅のパソコンで読みたい本を探すこともできます。図書館のホームページから資料検索へ入り、書名・著者名等を入力し、検索すると該当の本が出てきます。そして、その本を選ぶと詳細画面になりますので、一番下の「予約する」をクリックすると予約ができます。ただし、事前にパスワードの登録が必要ですので、ご本人が図書館へ来て申請をしてください。

#### \* 図書館以外でも受け取りOK！

また、予約された本は各図書館以外に市内四カ所の公共施設（四ページ参照）でも受け取ることができます。予約される時に希望の配本所を指定してください。毎週一回、木曜日午後には予約本をお届けします。

また、市内三つの図書館で借りた本はこの図書館へ返却されても結構ですので、お気軽に図書館をご利用ください。

図書館ホームページ <http://library.city.uji.kyoto.jp/> (iモード <http://library.city.uji.kyoto.jp/i/>)

ライブラーXの読書日記<sup>14</sup>  
produced by <sup>14</sup>

### 時代小説が ひそかに人気

#### ― 藤沢周平に注目 ―

はやりすたりのめまぐるしい世の中で、根強い人気があるのは時代小説。先ごろ亡くなった笹沢左保や山本周五郎を始め、人気作家は大勢います。中でも最近ひそかに大人気なのが藤沢周平です。著作の多さでも圧倒的なのですが、目に見えて貸出しが増えていきます。

時代物愛読者が多い年配の方もちろんのこと、学生さんらしき若者も文庫本を借りていわれます。人気の秘密は映画にあるようで、『たそがれ清兵衛』に続いて『隠し剣・鬼の爪』のヒットで、本の方も

改めて注目されています。それだけならよくあるパターンなのですが、藤沢人気が一味違うのは、映画化された作品に集中せず、広く読まれていくという点です。

主人公は決して派手なヒーローではないけれど、武家物でも市井物でも、しみじみと味わい深く、人の心をとらえます。作家の手柄がにじみ出ているような作品は、これからも流行に関係なく、読み継がれていくことでしょう。



※「冬のソナタ」は予約の方がたくさんいらっしゃいます。返却期限にご注意を！

図書館へようこそ

利用者にインタビュー

第40回

南浦クラブの子どもたち

ほぼ毎週水曜日の夕方に、西宇治

図書館の入口に二、三十人の子どもたちがやって来ます。子どもたちは館内に入る前に、引率の先生から図書館利用の約束事(大声を出さない。走らないことなど)を聞き齊唱します。

これだけの子どもたちが一斉に入ると、なかなかマナーは守られにくいものですが、先生が厳しく指導されているのでマナーもよく、図書館としてもありがたいことです。

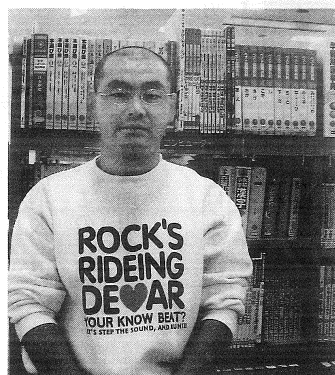
今回は子どもたちを引率されてきた先生から図書館を利用して感じられたことや子どもたちへのインタビューをお願いしました。

◇◇◇◇◇

「幼い時期から、本に触れる」とことは、学童期の子どもたちにとって、その後の人生を左右すると言っても過言ではないと思います。

南小倉小、西小倉小学区の子どもたちを放課後にお預かりしている「南浦クラブ」では、現在小学校一年生から四年生まで五十名の児童が在籍しています。

そして、週に一度、西宇治図書館にお邪魔して、本を借りたり、本を読んだり、まさに「本に触れる楽しい場所」として利用させていただいております。



川上先生

私から、その子どもたちに、図書館についてのインタビューをしました。

「本は好きですか」

○ 好き(大半の子どもたちが手を上げて答えてくれました。)

「理由は」

○ おもしろくて漢字を覚えられるから

○ 時間を忘れられるから

○ 読書すると勉強できるから

「たくさん本があるけれど、どんな本が好きですか」

○ かいけつゾロリの本がいっぱいほしいな

○ 怪談レストランなどのシリーズもの

○ 物を作るのが好きやから図工の本が欲しいな

○ 読むのが大好きやし、ページがいっぱいある本がたくさんあるといい

「どんな本が図書館にあったらうれしいですか」

○ 命の本(虫や動物などの一生を描いている本)

○ ジャニーズの本とか明星

○ クイズとポケモンの本

○ プンブンとかマンガの本

「週に何回くらい図書館を利用していますか」

○ ゼロ回 七人

○ 一回 十七人

○ たまに行く 十人

「本を借りる時は、一度に何冊借りますか」

○ 一冊 一人

○ 二冊 四人

○ 三冊 四人

○ 五冊から七冊 十二人

○ 十冊 一人

南浦クラブの子どもたちにとって、西宇治図書館が単に、本の楽しさに触れられる場所としての役割にとどまらず、「ほっこりできる場所」、「安心して過ごせる場所」としての意味もあるように感じられました。今後ともよろしく願います。



◇◇◇◇◇

先生もおっしゃっておられますが、学童期に本に触れることは、子どもたちの糧となると思います。図書館には数多くの分野の本があります。次の機会には、新しい未知の分野の本にも挑戦してはいかががでしょうか。

きっと新しい発見や喜びがあるかもしれません。

仲間たちと図書館を利用したことを、いつかにつかしく思い出すこともあるでしょう。

## 郷土のはなし

## 興聖寺の光明蔵

宇治橋東詰から南へ五、六百メートル行っただころに興聖寺があります。春は山吹、夏は深緑、秋は紅葉、冬は積雪と四季おりおりの美しさがあり、市民はもちろん観光客も多く訪れています。

興聖寺はもとも深草の地に、道元禅師が建立した禅宗の寺ですが、いつの頃から廃絶しました。その後、慶安元年（一六四八）

に淀藩主永井尚政が、父直勝の菩提を弔うため、現在の地に再興しました。本堂の建物は伏見城の遺構と伝えられ、また天竺殿に安置されている聖観音立像は、俗に手習い観音とも呼ばれ、源



氏物語宇治十帖の古跡の一つ、手習杜の観音堂の遺仏と伝えられています。他に、江戸時代の儒学者林道春（羅山）が撰じた鐘銘や十六羅漢像など、重要な文化財が多く残されています。ところで、楼門を入って左手に六角形をした小堂があります。この建物は、光明蔵と呼ばれています。光明蔵は明和四年（一七六七）に建てられたもので、吉祥天・弁財天・秋葉大権現がまつられています。この光明蔵が建てられたには理由がありました。

明和四年、この年は宇治の町

でたびたび火災がおこりました。何とかこの火災を治めようと宇治の町民は、火伏せの神である秋葉権現に火災がおこらないよう祈願し続けました。そして祈りが通じたのか、その後、火災がおこらなくなったので、宇治の町民はお礼として一石一字写経し、それを埋納して、その上にこの光明蔵を建立しました。ちなみに、「興聖寺丈室内記」にはこの秋葉権現の像は、烏天狗の姿で、右手に剣、左手に釣瓶のような水桶を持って白狐の上に立ち、背には火焰を負うさまざまの形相であると記されています。

無火災の撲滅を願って建立された光明蔵の存在は今や忘れさられようとしています。多くの文化財が残され、それが自然環境と一体化をなしていることから、京都府は平成七年に、「興聖寺文化財環境保全地区」に決定し、興聖寺境内の保全を図っています。

## 利用案内

・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、貸出券を作ること一人十冊三週間、本が借りられます。貸出券は全館共通です。図書館で借りた本は市内のどの図書館へも返却することができます。・図書館は九時から十七時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第四木曜日（いずれも祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日の場合は平日に振替）、年末年始です。

・予約された本を市内四カ所の公共施設（木幡公民館、槇島コミュニティセンター、南宇治コミュニティセンター、開地域福祉センター）で受け取ることができます。毎週一回、木曜日の午後には搬送します。

・図書館で借りた本は公共施設へ返却することはできません。

## あとかき

まだまだ寒い日がありますが、日ごしは確実に春に向かって柔らかくなってきました。春はなんとなく、気分がウキウキする季節です。今年こそ、宇治の桜の名所に出かけて行きたいと思っています。皆様もお天気の良い日、桜の下で読書なんていかがでしょうか。